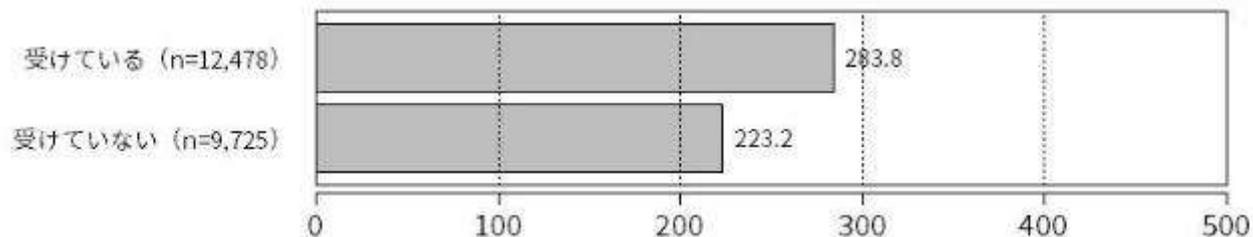


定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

（保護者票 問 28 × 保護者票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

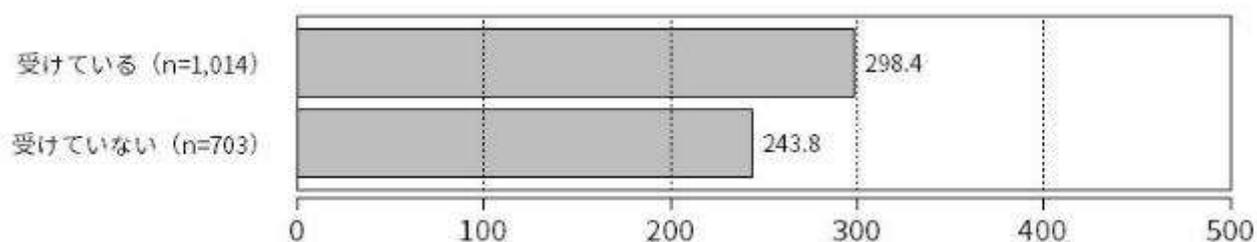


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 298.4 万円、「受診なし」では 243.8 万円と等価可処分所得について差が見られた。

## <健康に関する考察>

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、週に1度も朝食を「食べない」と回答した割合が2.9%となっている（大阪市全体3.6%）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が66.5%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は59.9%と、「毎日またはほとんど毎日」の人のほうが「よく会話をする」の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.8点（大阪市18.7点）、「週5回以下」では、17.7点（大阪市17.2点）と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。困窮度別に入浴頻度（5歳児）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合が低くなるものの、「週に2~3回」以下の回答は見られなかった。

心身の自覚症状（子ども）について、困窮度Ⅰ群で多い項目を挙げると、「イライラする」29.1%（大阪市27.6%）、「やる気が起きない」26.7%（大阪市27.2%）、「不安な気持ちになる」23.3%（大阪市19.7%）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高い。「特に気になるところがない」という回答の割合は、中央値以上群25.5%（大阪市25.9%）に対して困窮度Ⅰ群では18.6%（大阪市20.3%）にとどまる。これらの心身の症状が学習状況に影響を与えていると推測される。

心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「よく肩がこる」51.4%（大阪市47.1%）、「イライラする」42.8%（大阪市42.5%）、「不安な気持ちになる」38.7%（大阪市38.5%）となっている。

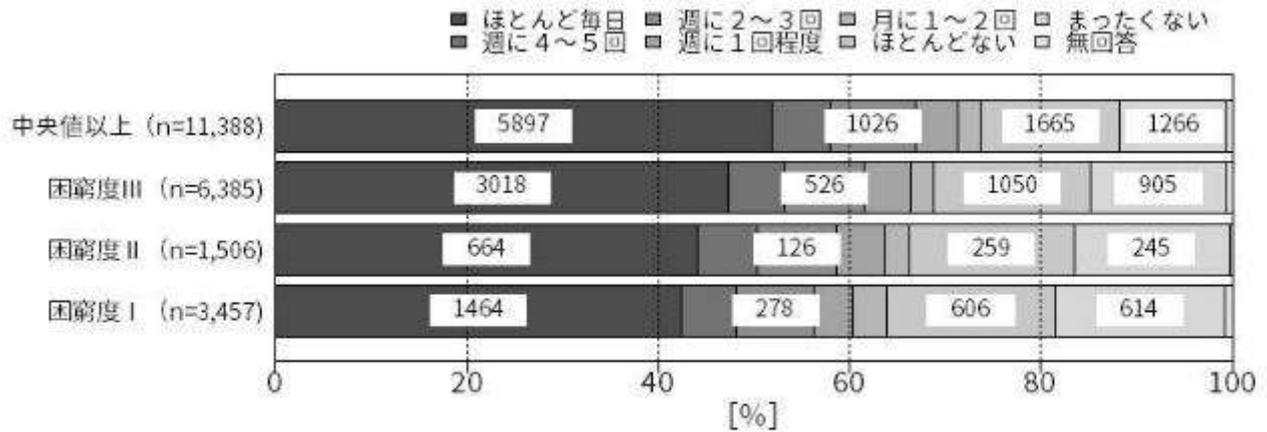
生活を楽しんでいるか、将来への希望、ストレスを発散できるものがあるか、幸福度、を困窮度別に見ると、中央値以上群に対して、それ以外の群では、肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られた。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が高く、困窮度Ⅰ群（37.0%、大阪市39.5%）が低くなっている。

### 3-4. 家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）  
（子ども票 問10①）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

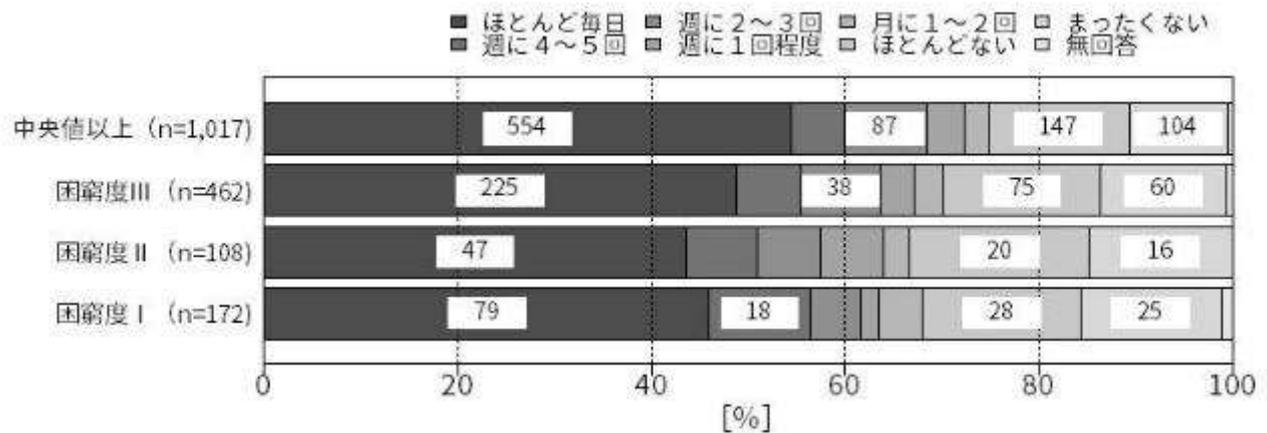
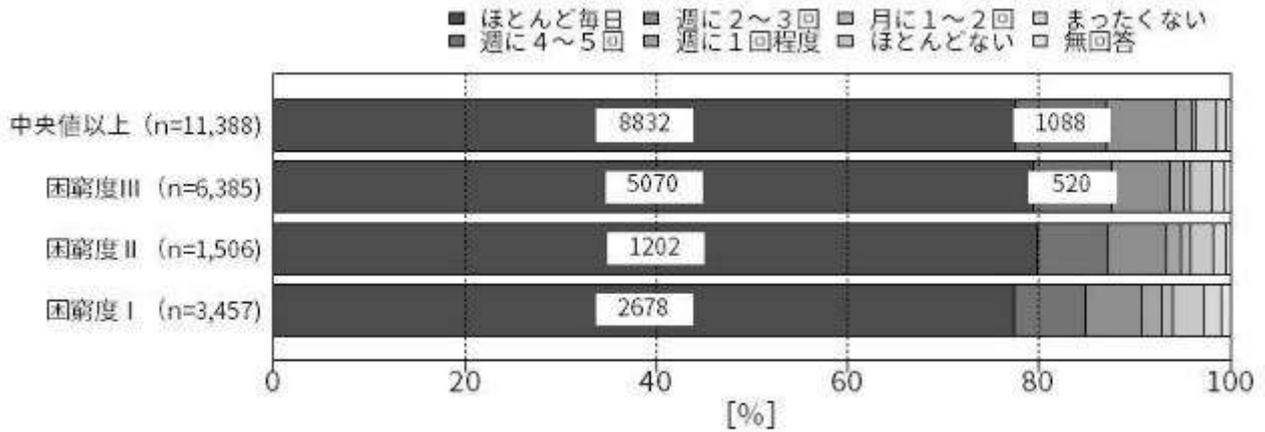


図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が14.5%、「ほとんどない」が16.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）  
 （子ども票 問10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

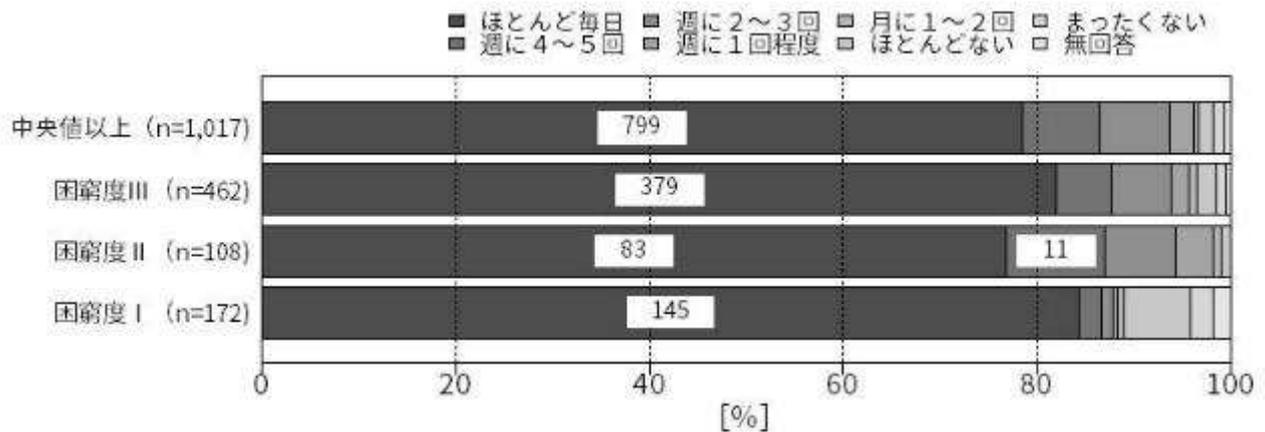
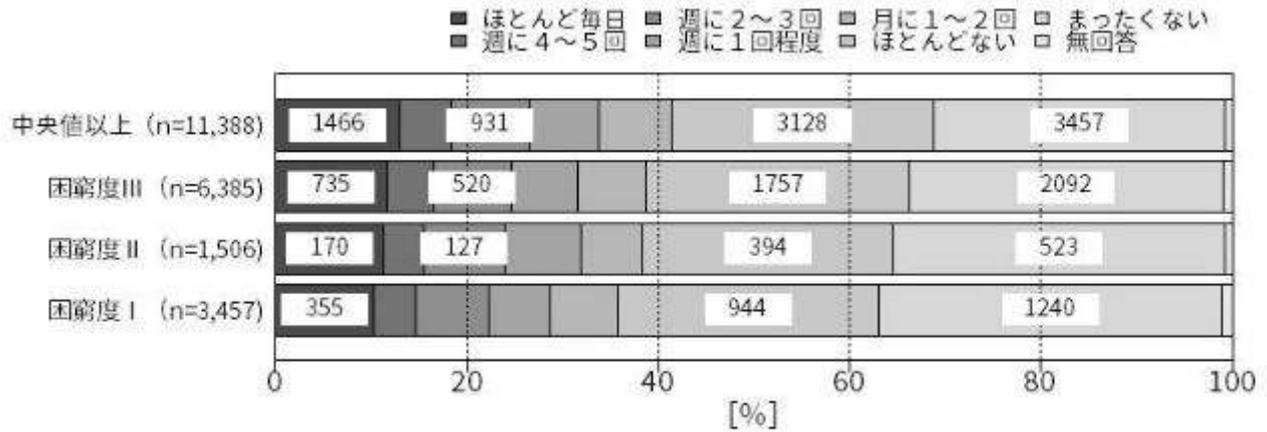


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）  
（子ども票 問10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

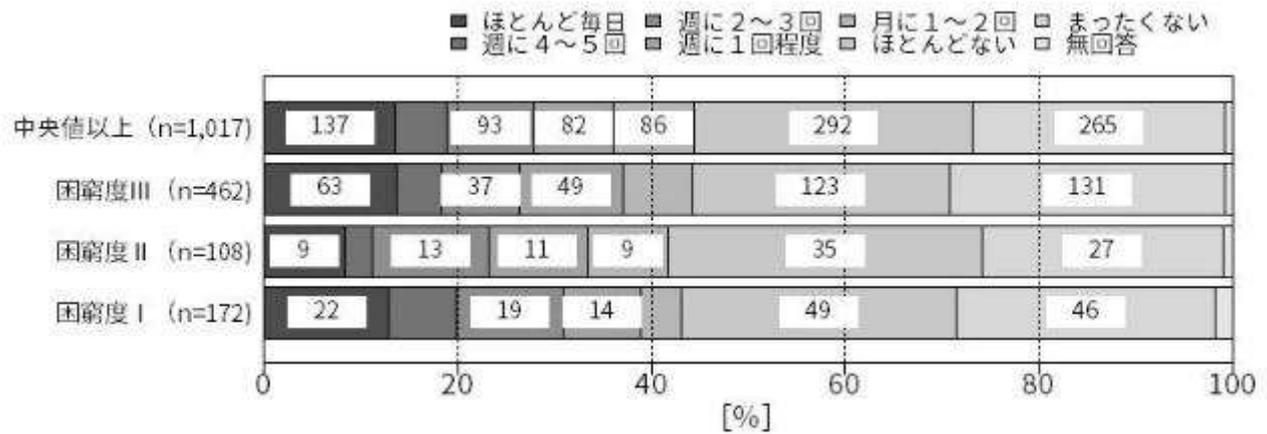
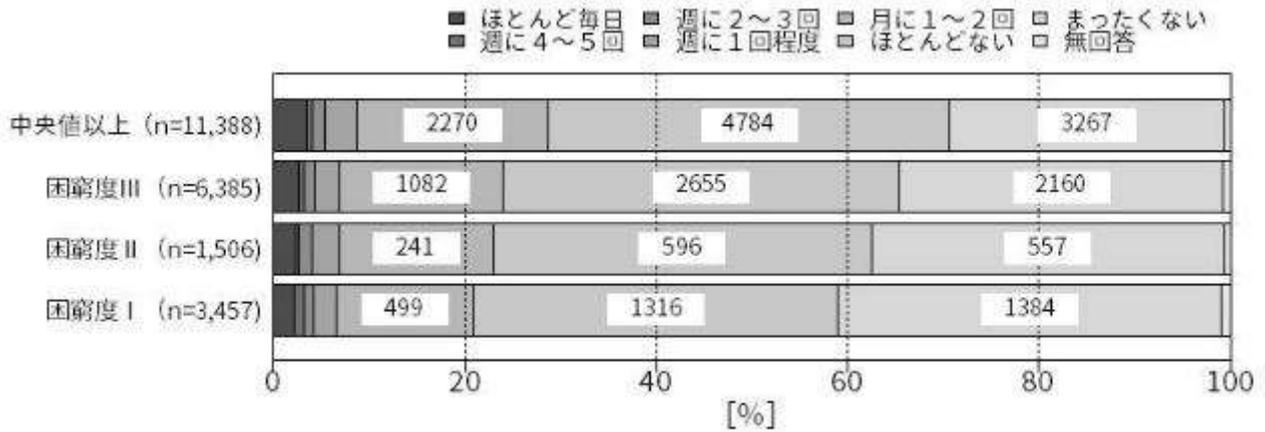


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）  
 （子ども票 問10⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

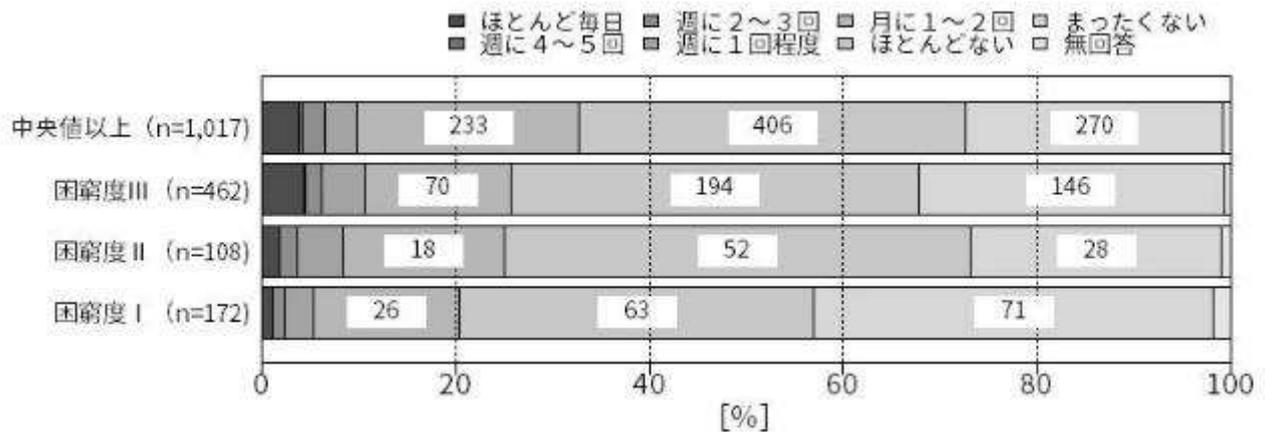
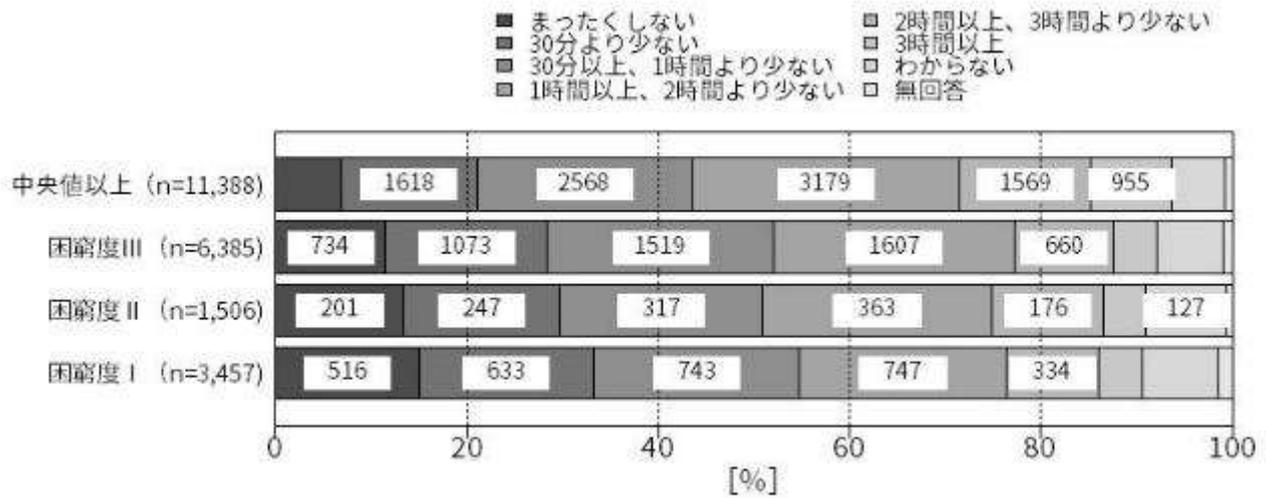


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどない」・「まったくない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は36.6%、「まったくない」と回答した人が41.3%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

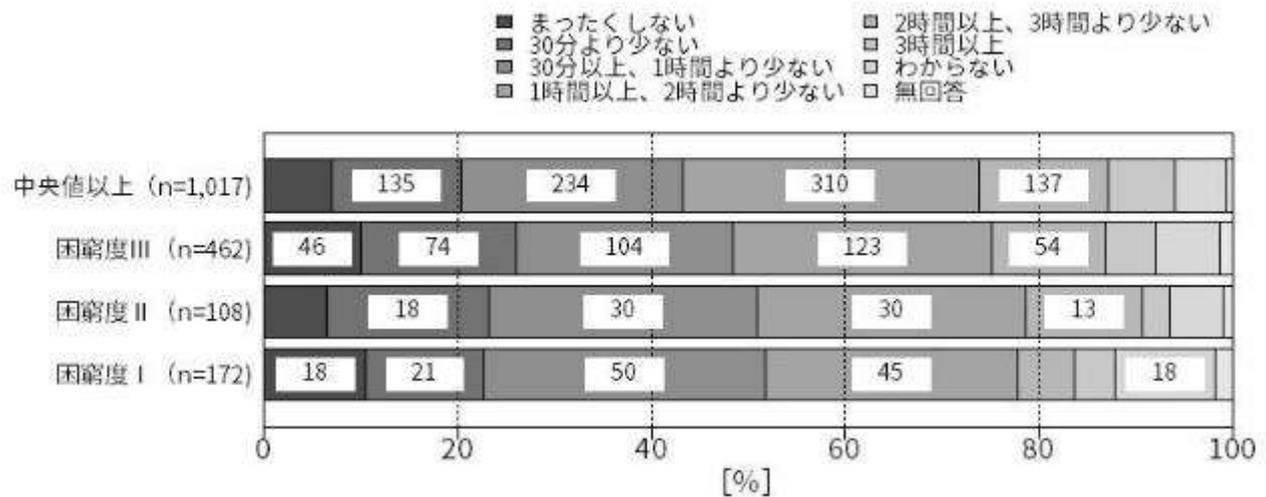
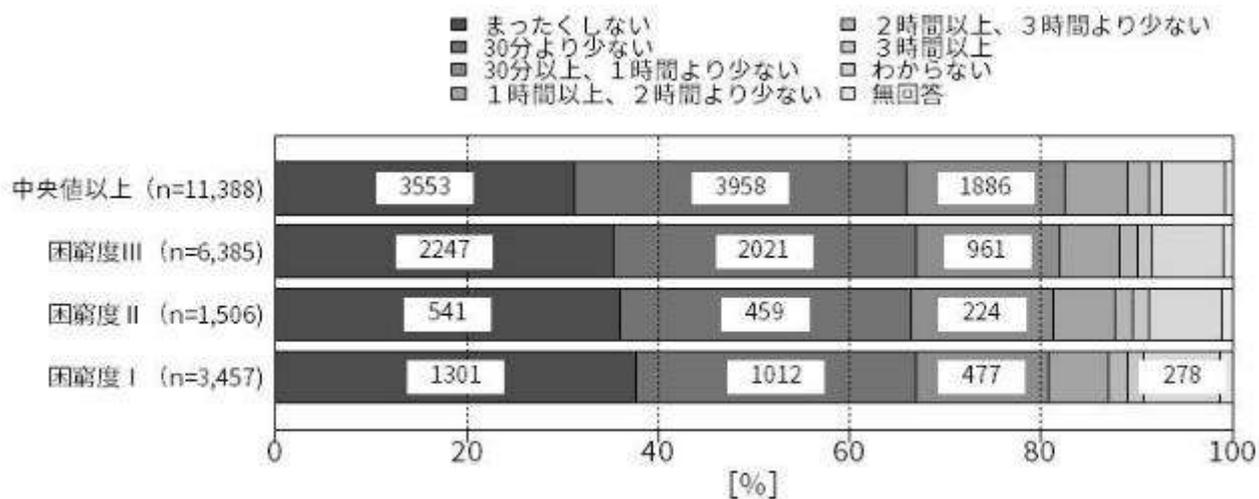


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30分より少ない」・「30分以上、1時間より少ない」と回答した人の割合が高まっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は10.5%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問 19）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

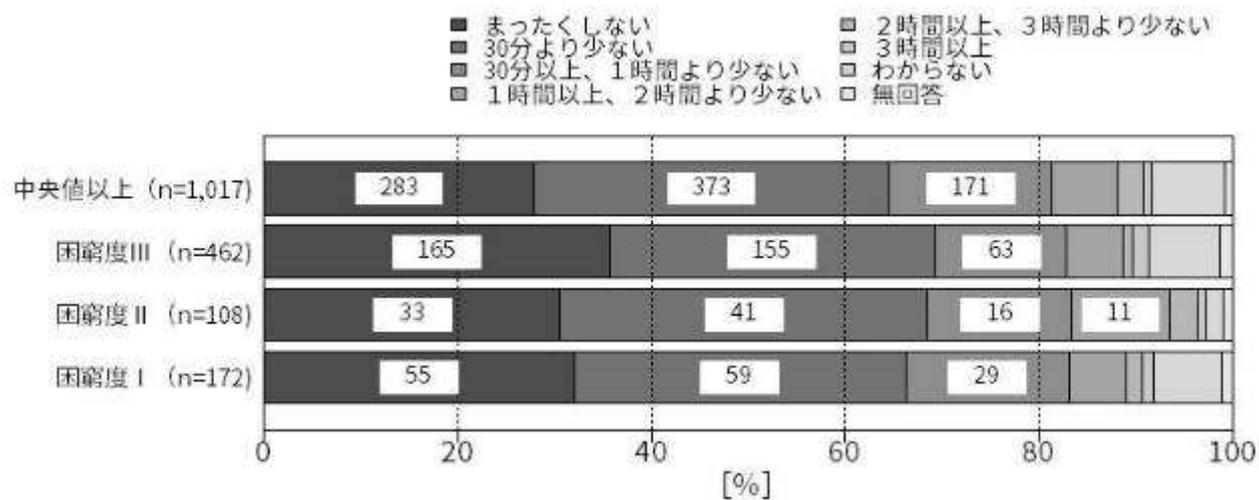
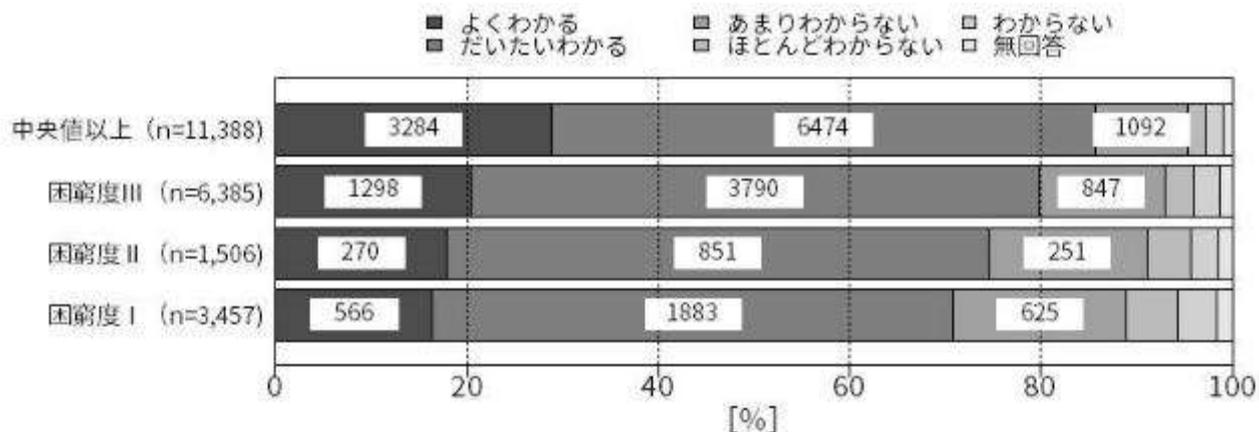


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

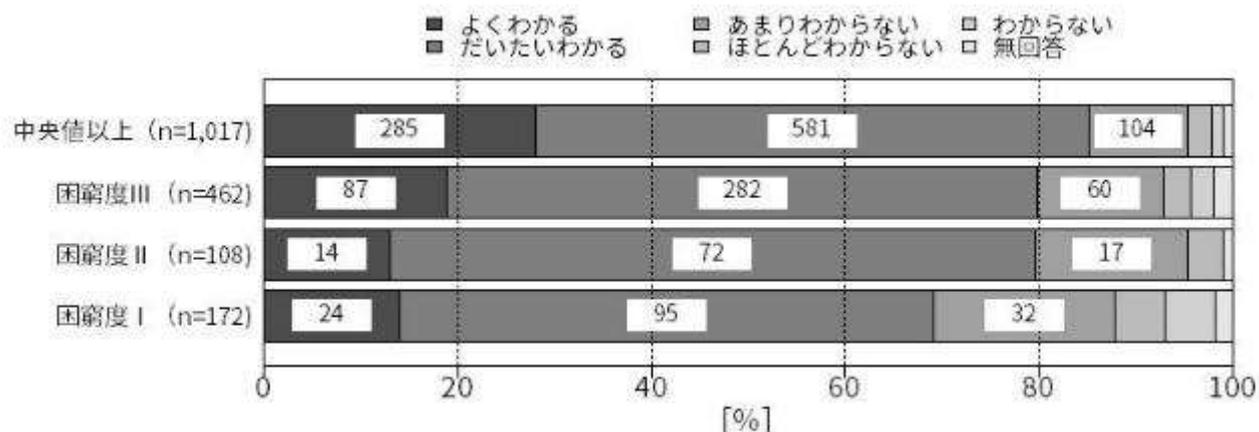
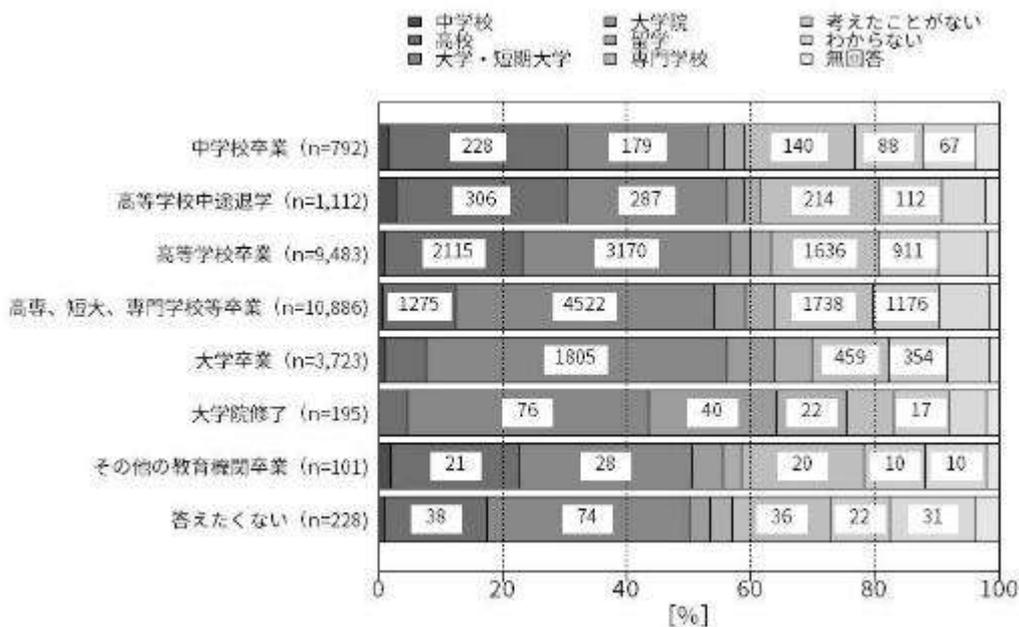


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」・「だいたいわかる」と回答した人の割合が低くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「よくわかる」・「だいたいわかる」と回答した人は 69.2%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

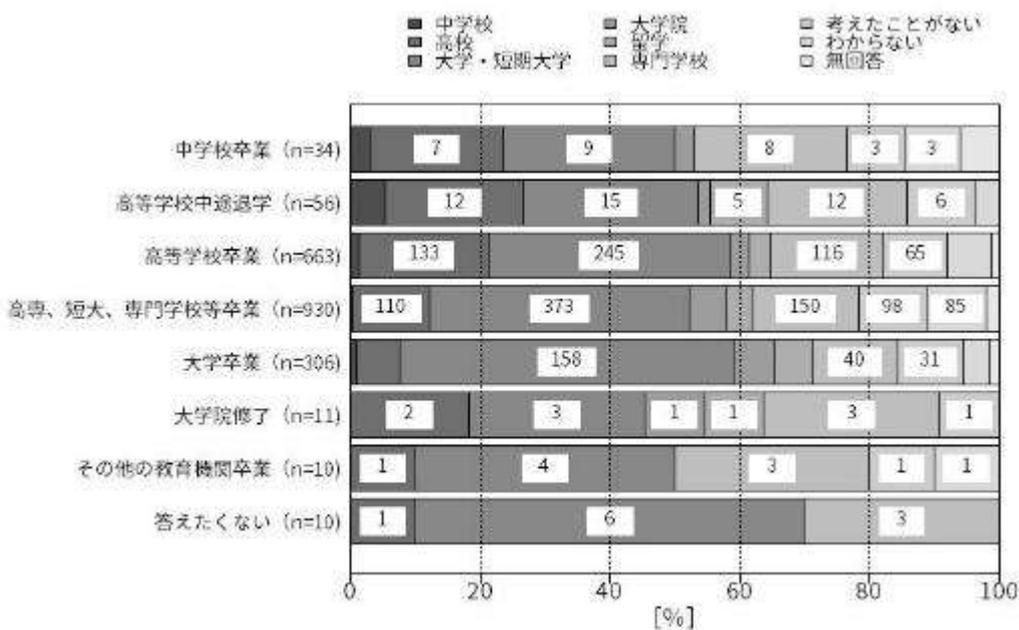
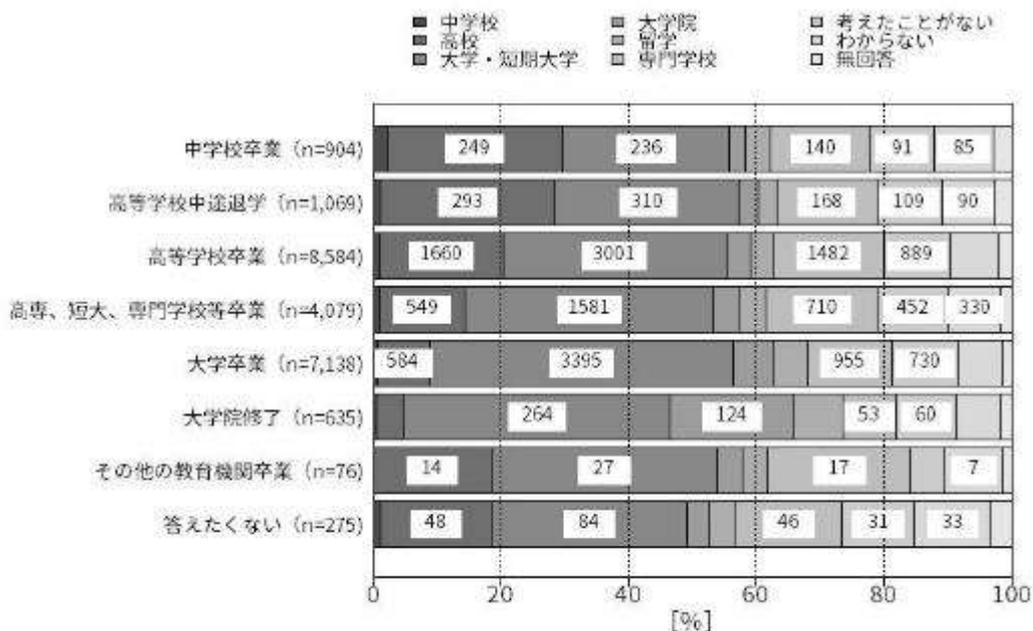


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

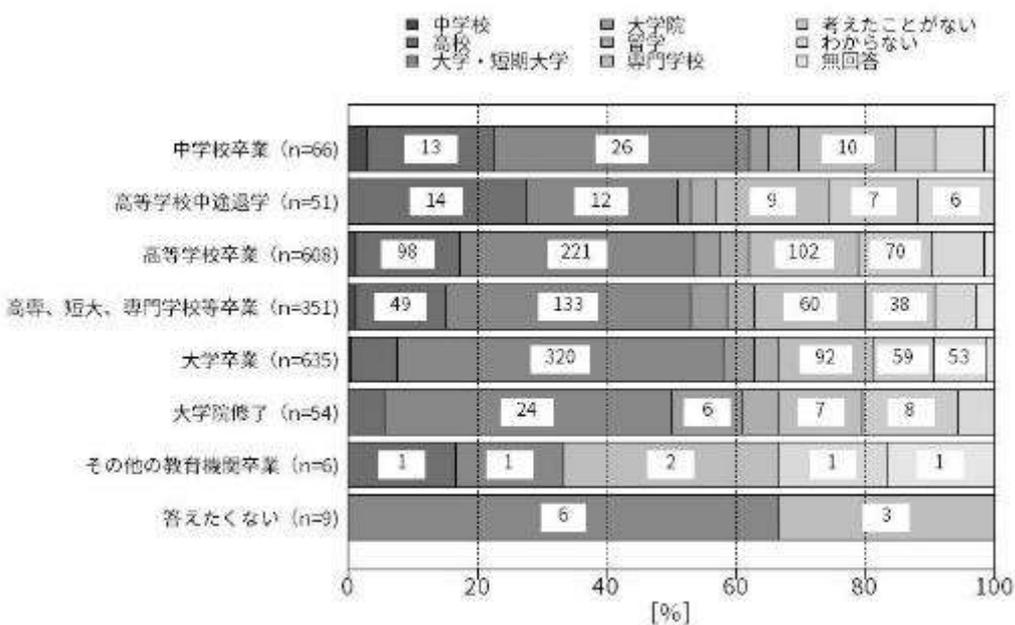
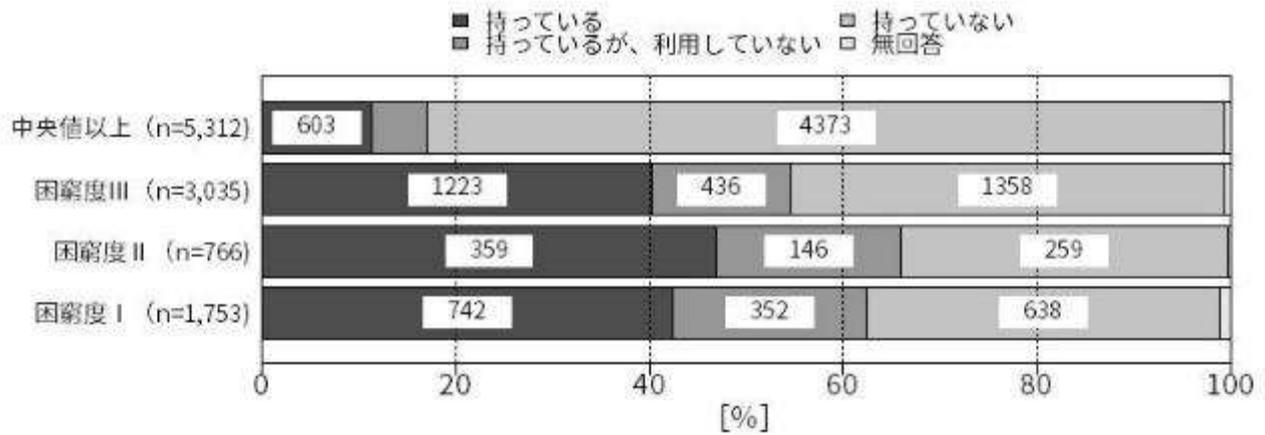


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問18）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

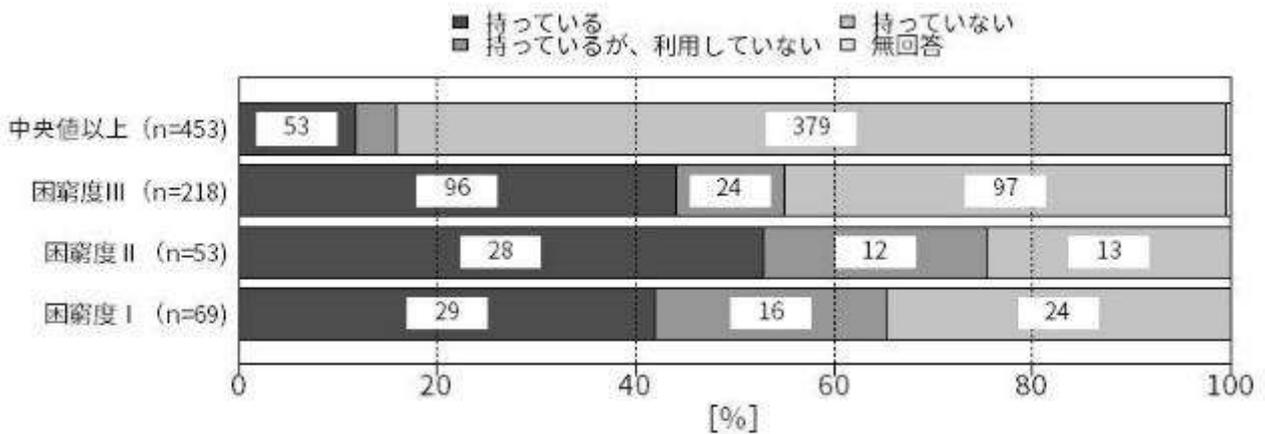
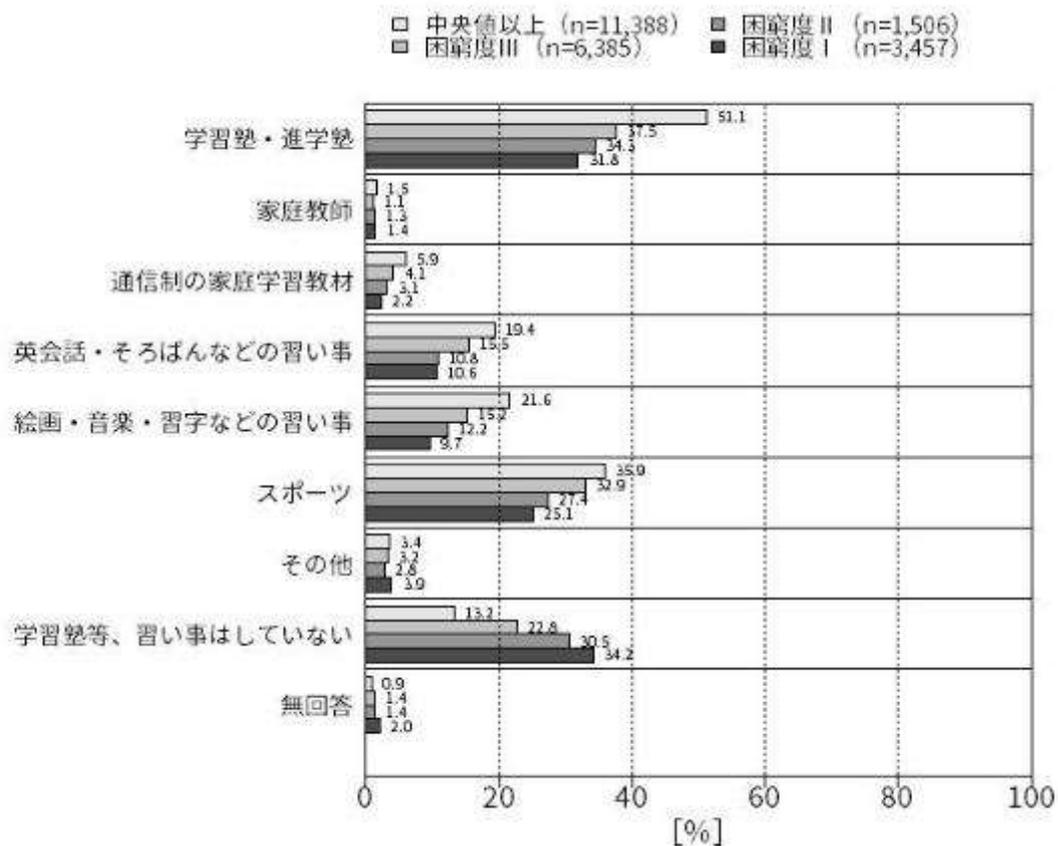


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が42.0%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では52.8%、困窮度Ⅲ群では44.0%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問15）

<大阪市 24 区>



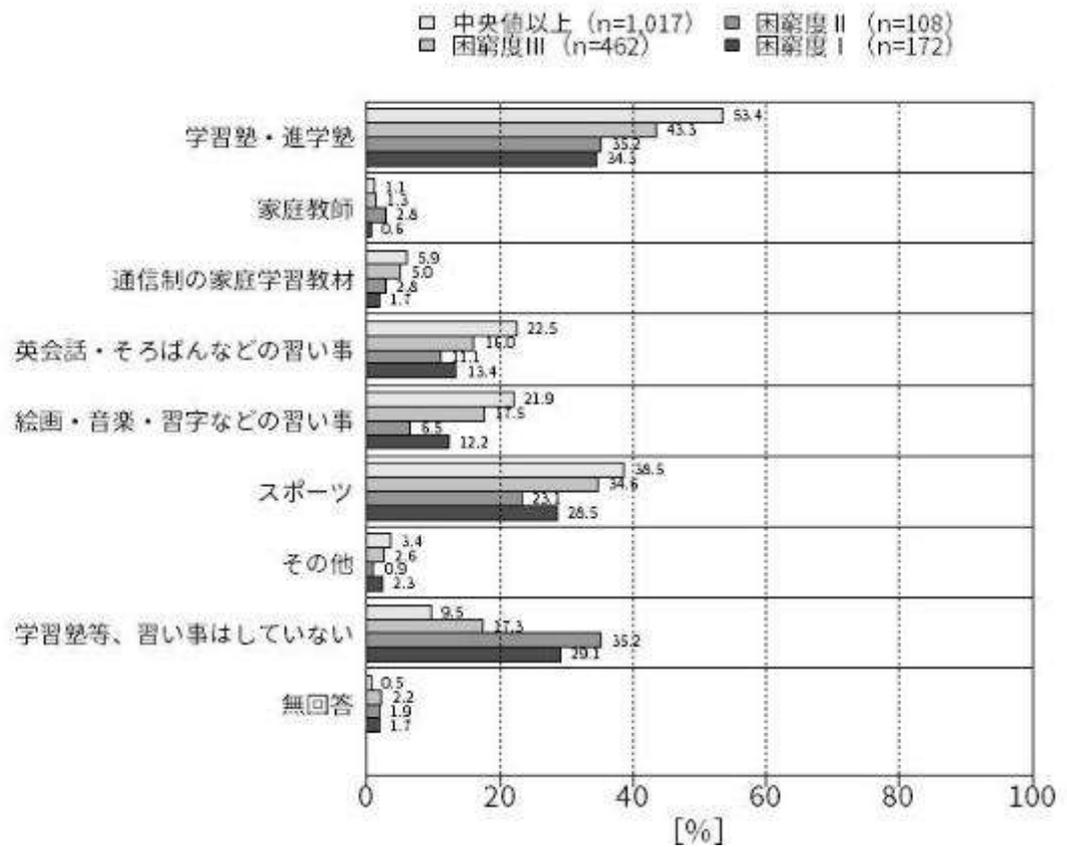
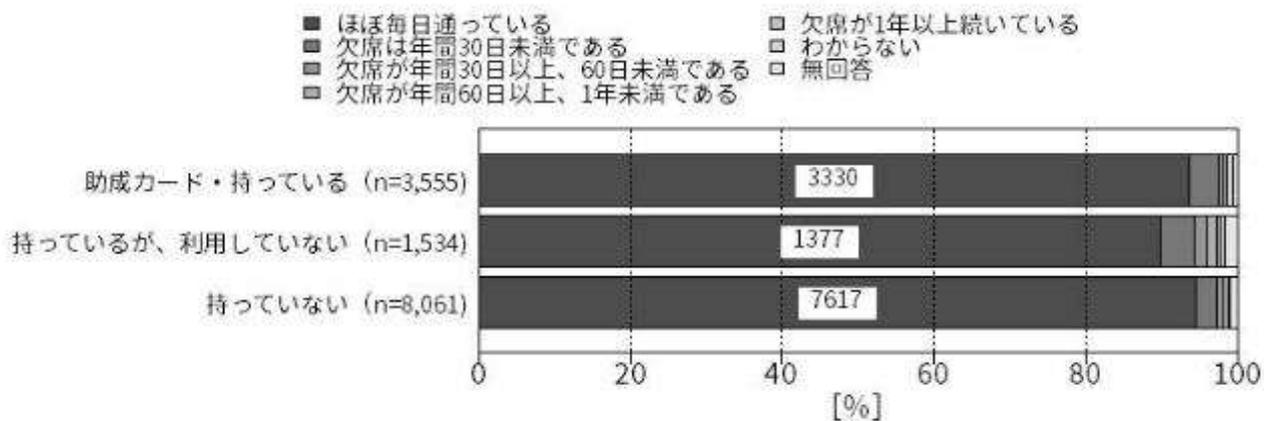


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が34.3%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では35.2%、困窮度Ⅲ群では43.3%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では9.5%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では29.1%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票 問18 × 保護者票 問21）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

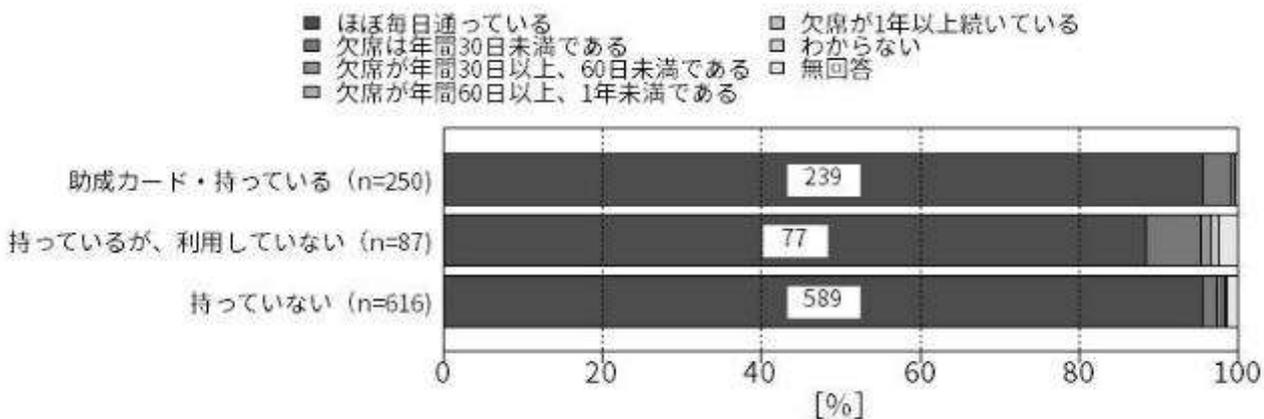
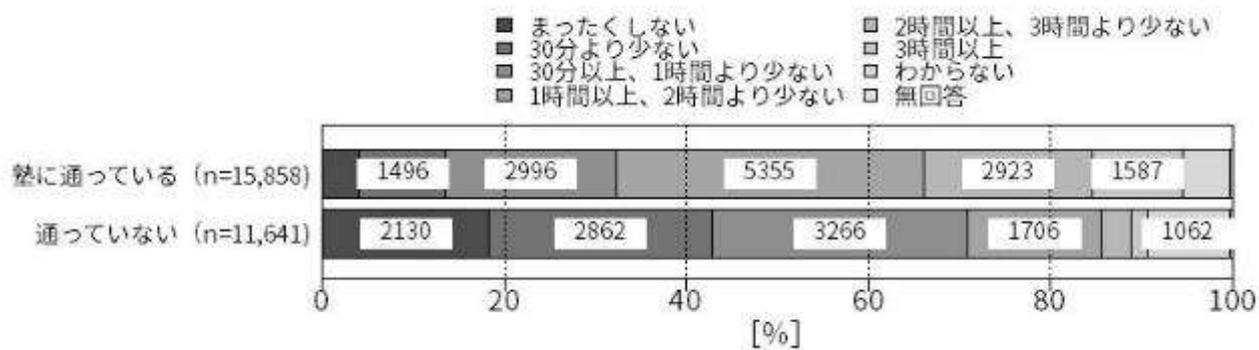


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードの所持状況によって、通学状況に大きな差は見られなかった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 15 × 子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

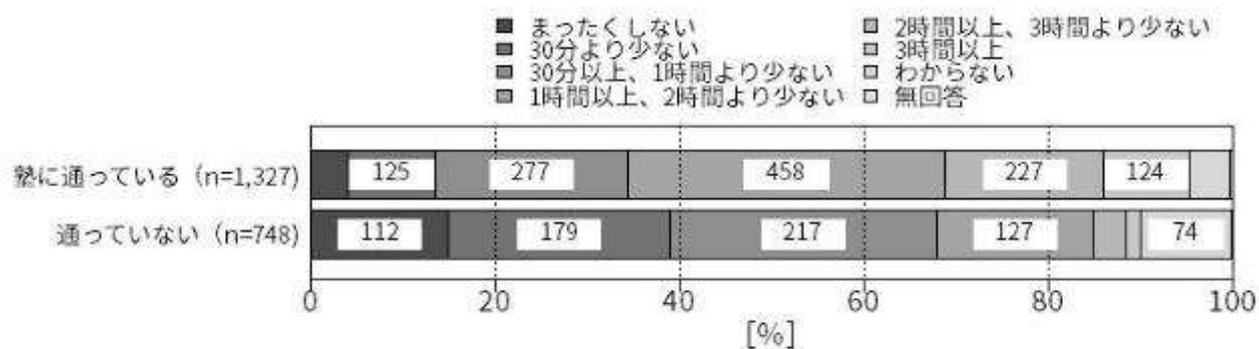
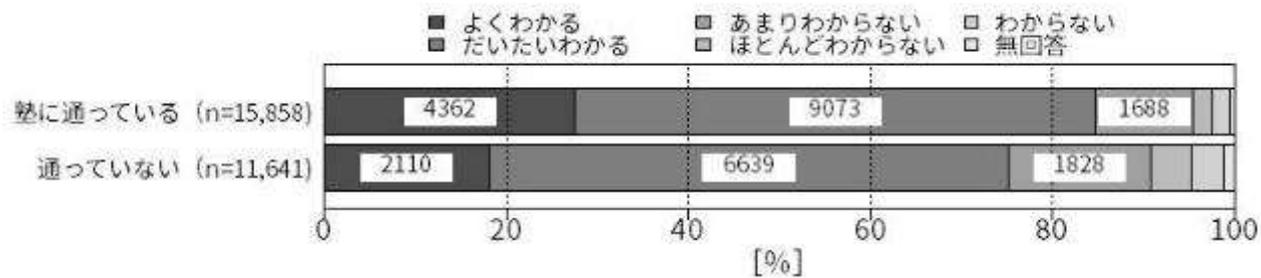


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が15.0%であったのに対し、塾に通っている人は4.1%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票 問 15 × 子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

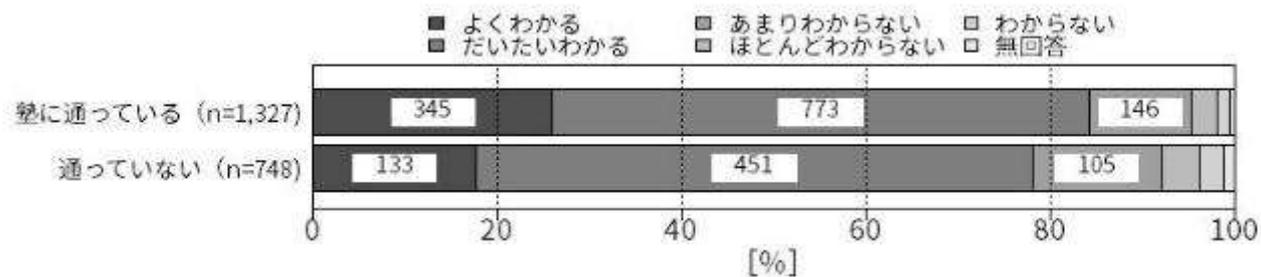
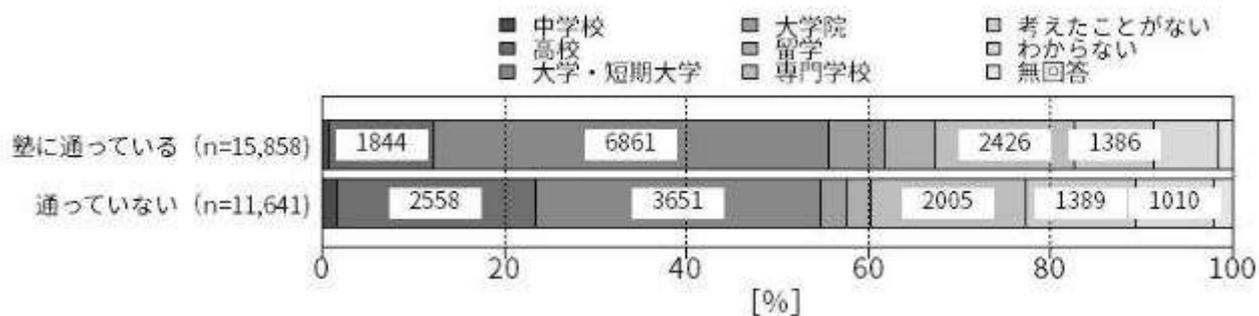


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が 17.8%であったのに対し、塾に通っている人は 26.0%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票 問 15 × 子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

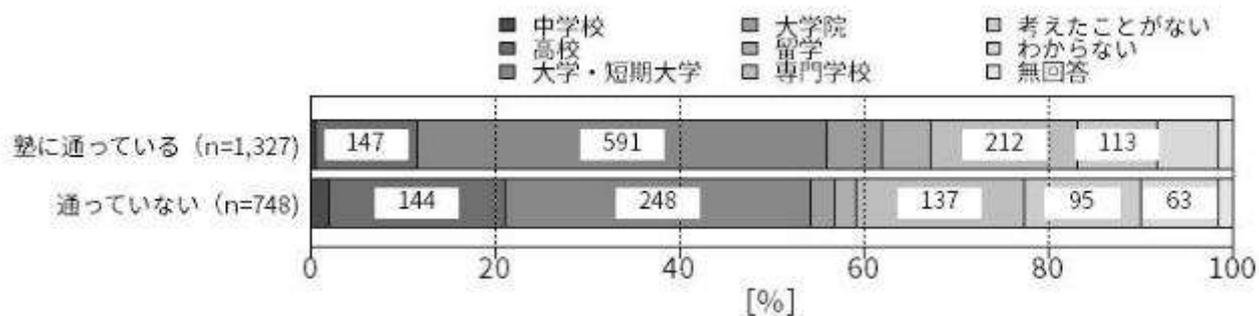


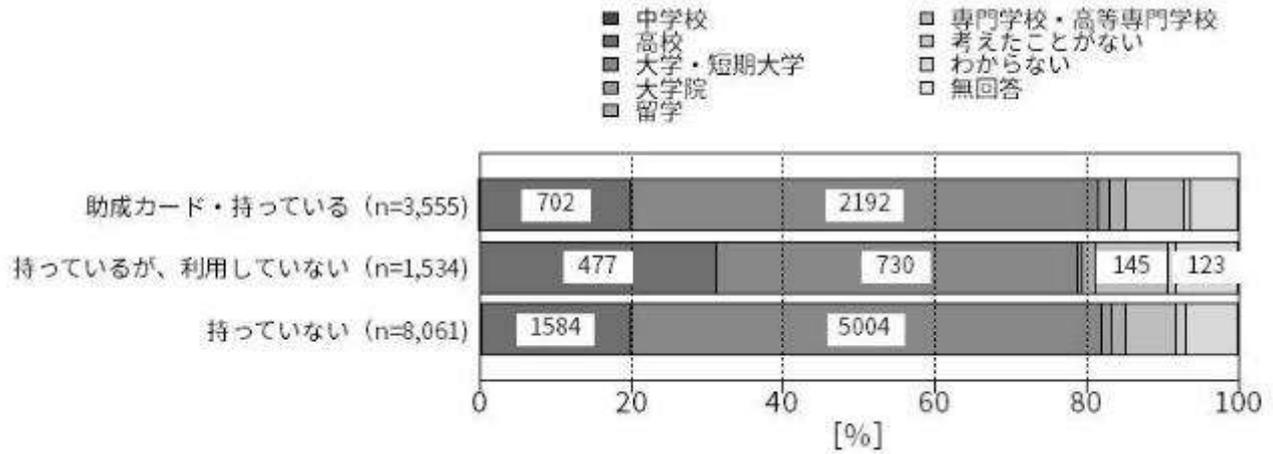
図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 33.2%であったのに対し、塾に通っている人は 44.5%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

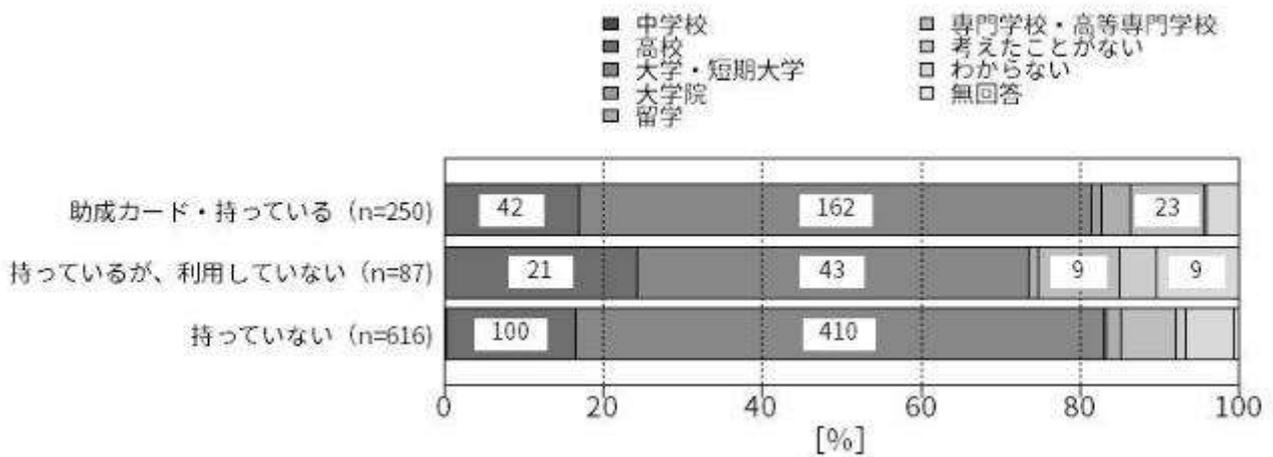


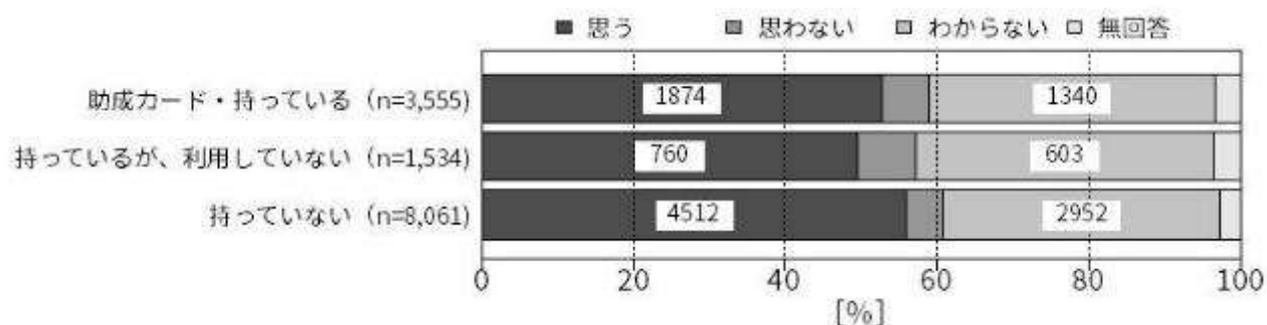
図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾代助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 66.6%であったのに対し、持っているが利用していない人が 49.4%、持っている人が 64.8%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 16)

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

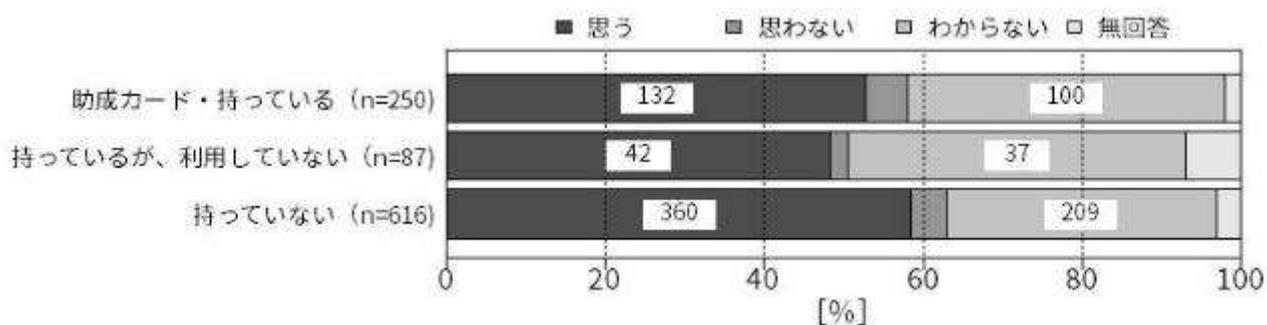
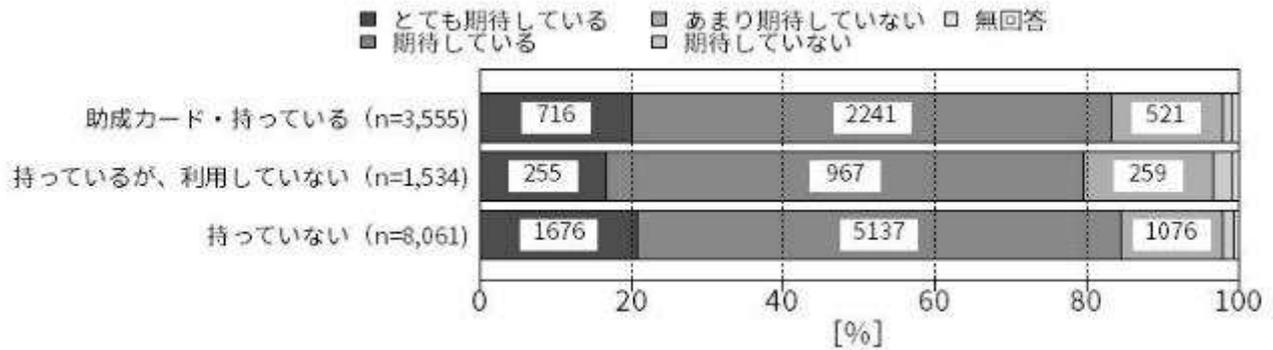


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 58.4%であったのに対し、持っているが利用していない人が 48.3%、持っている人が 52.8%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （保護者票 問 18 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

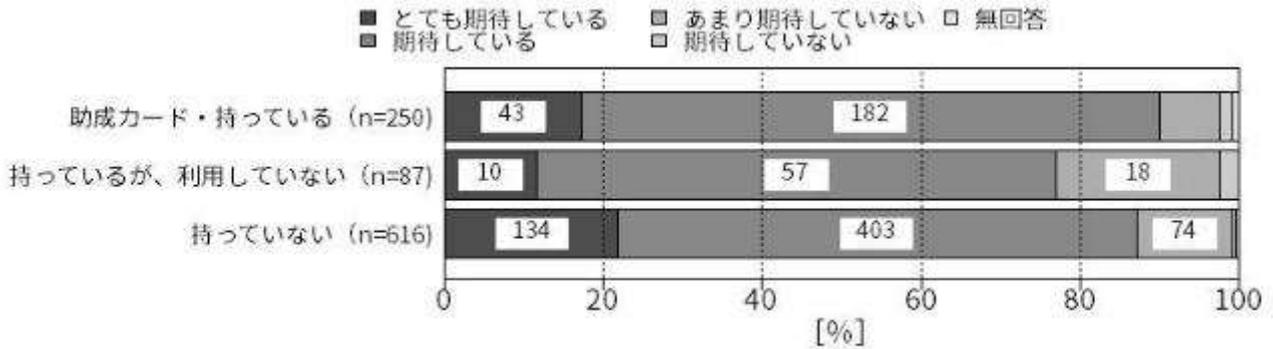


図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり  
 (子どもへの将来の期待)

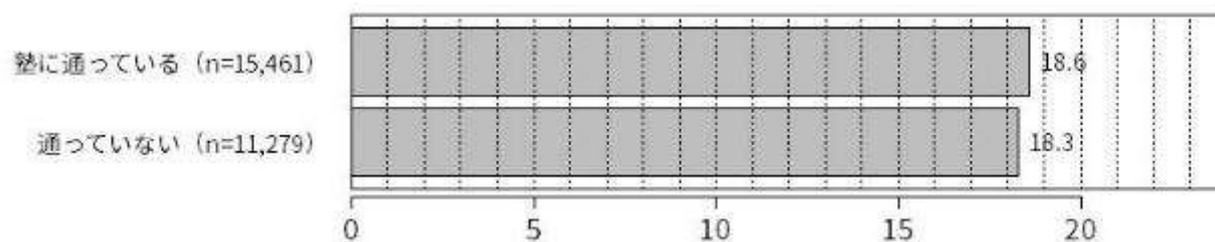
塾代助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 21.8%であったのに対し、持っているが利用していない人が 11.5%、持っている人が 17.2%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 15 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

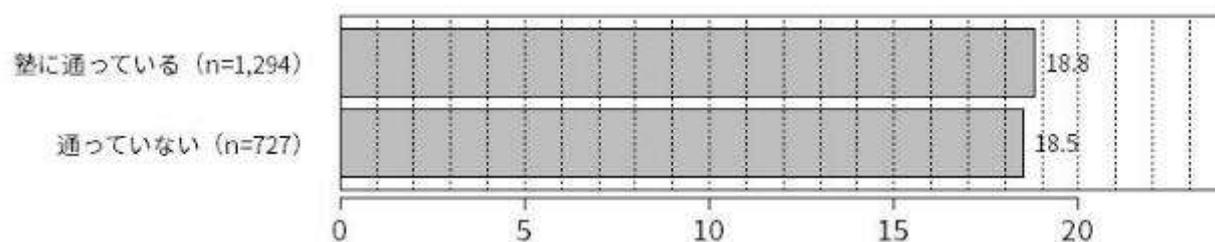
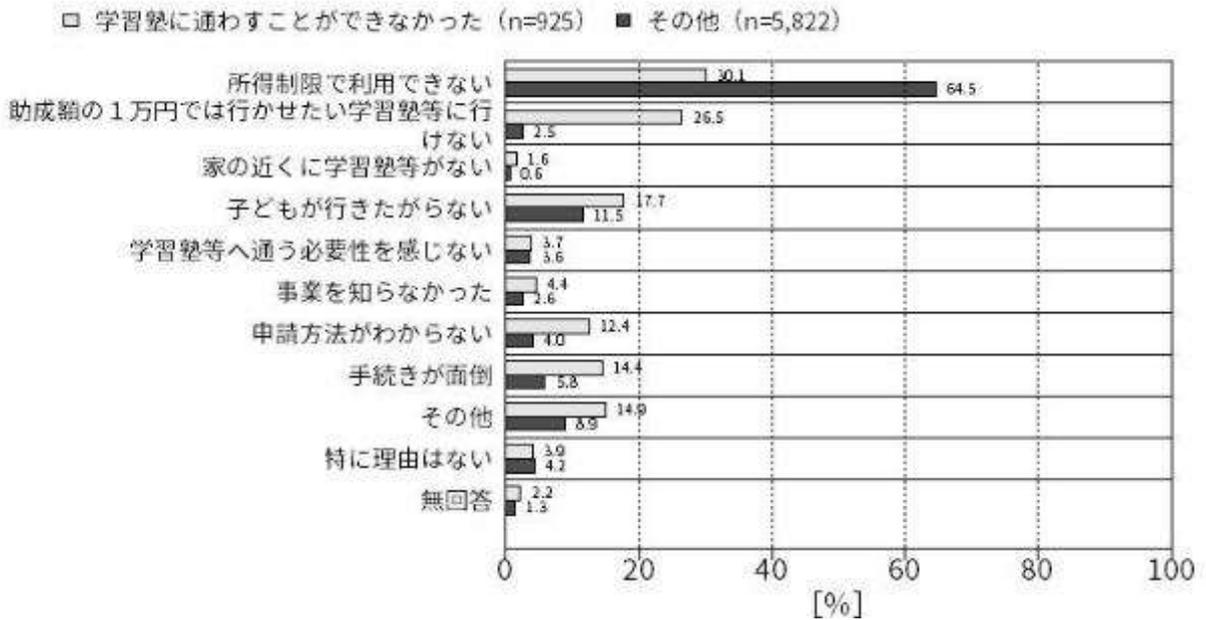


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.5 点であったのに対し、塾に通っている人は 18.8 点であった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由  
 (保護者票 問 13 の 9 × 保護者票 問 20)

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

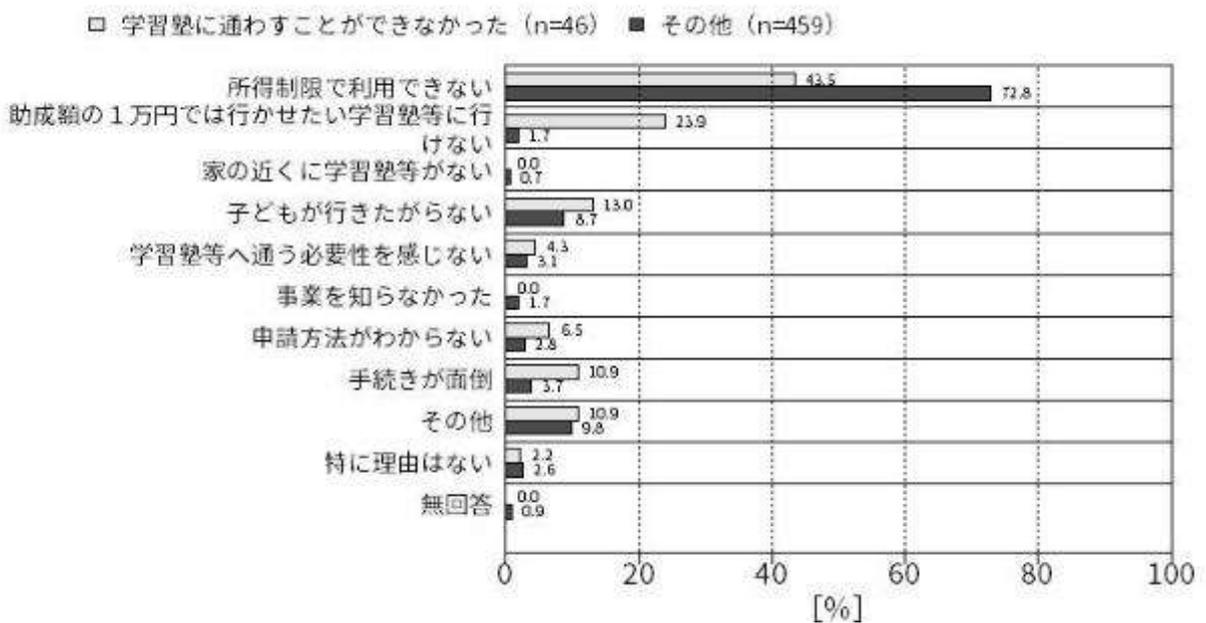
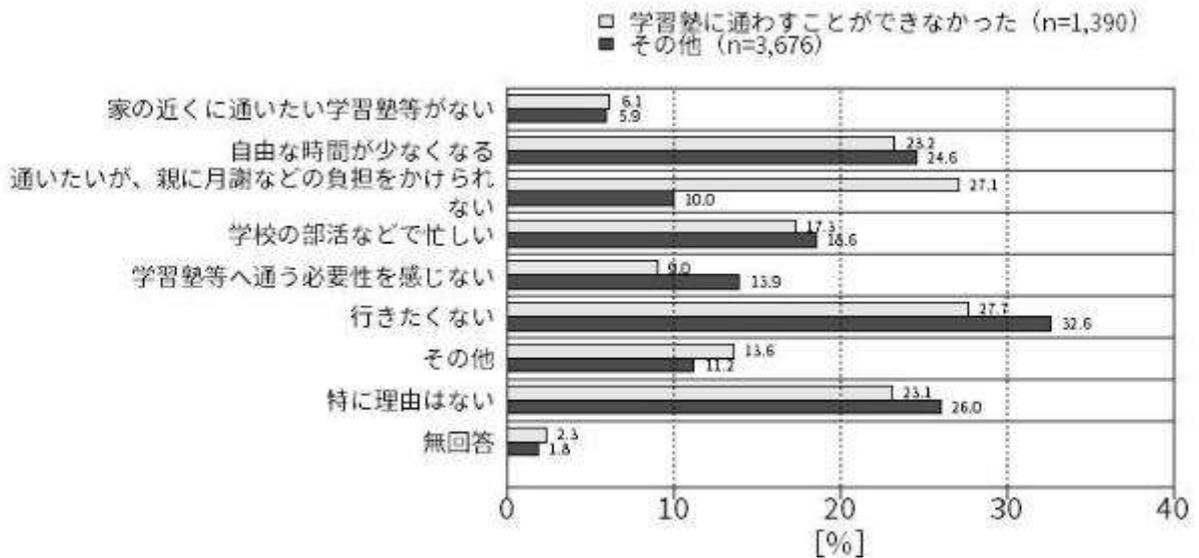


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかつた人は、「所得制限で利用できない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が 43.5%と多かつた。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票 問13の9 × 子ども票 問17）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

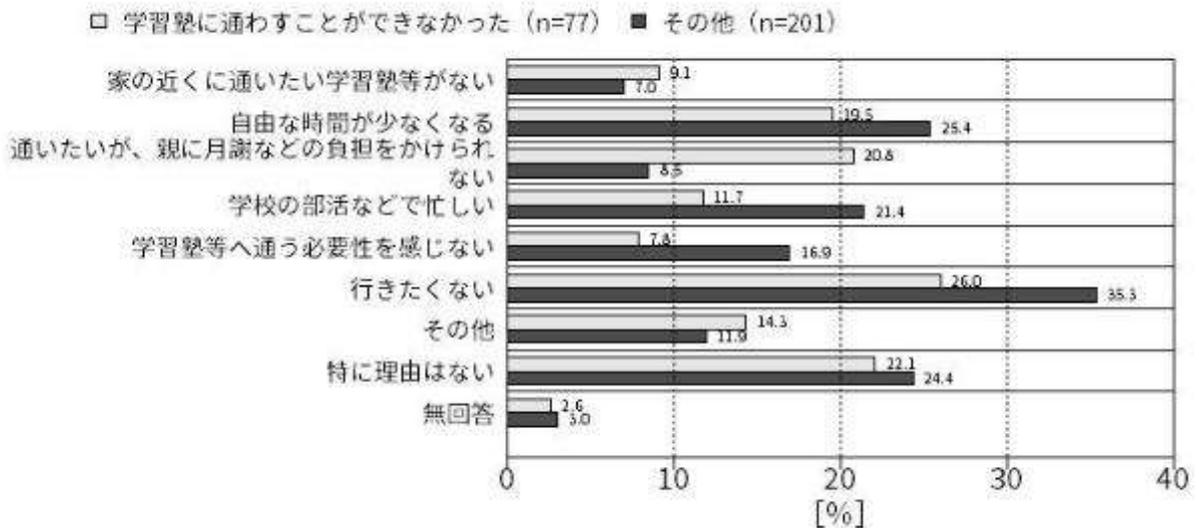


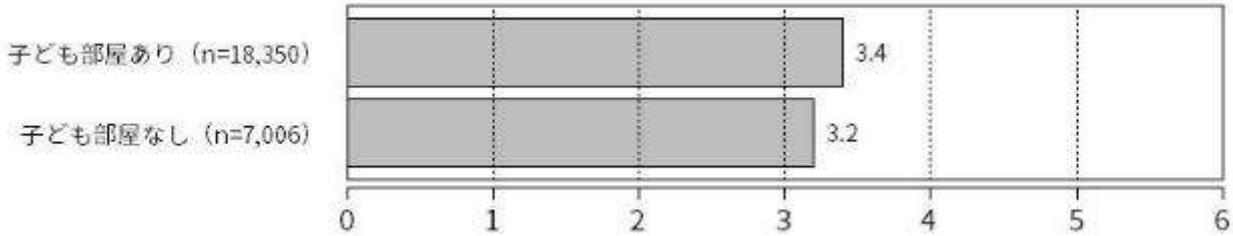
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「行きたくない」という理由が 26.0%と多かった。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票 問 25 の 3 × 子ども票 問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

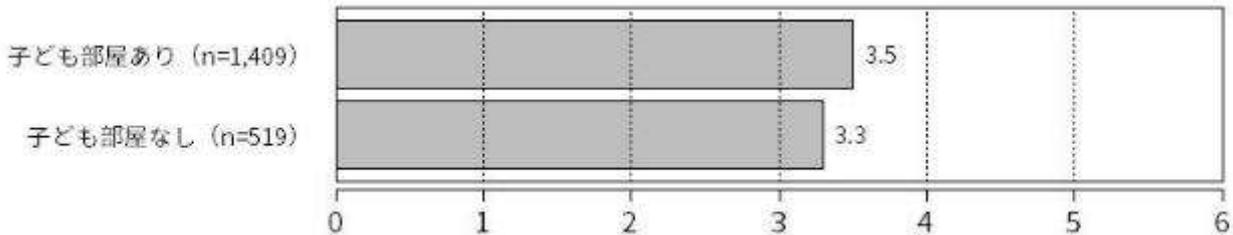
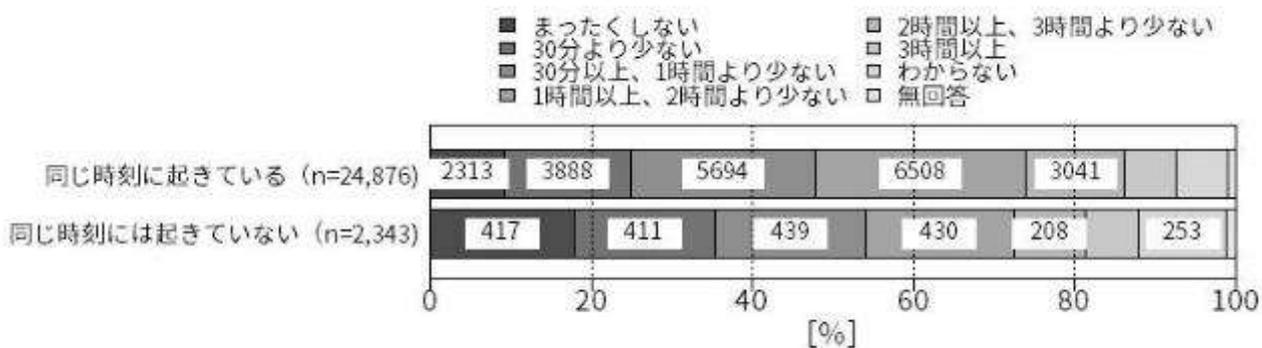


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は 3.5 時間、子ども部屋がない場合は 3.3 時間であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問2 × 子ども票 問14）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

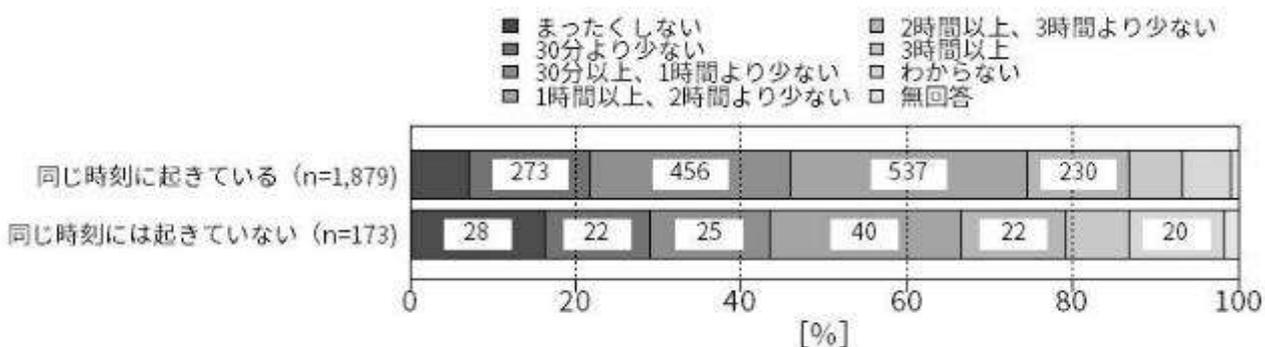
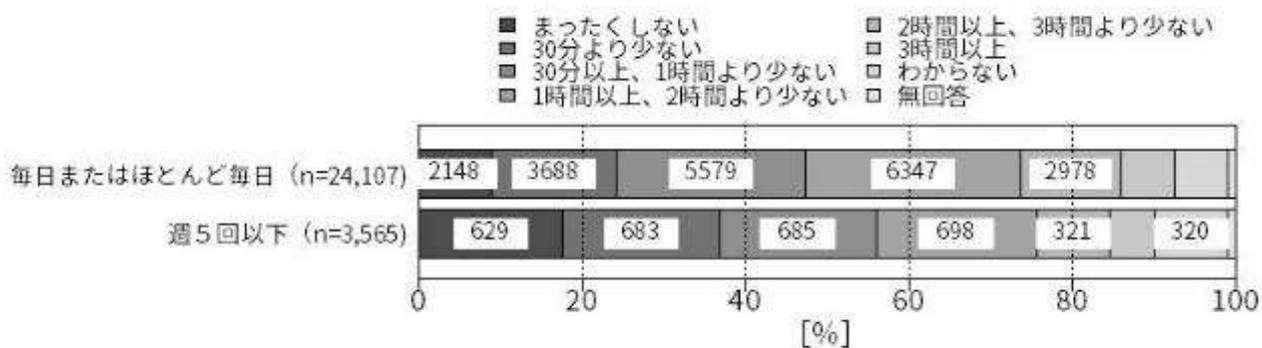


図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問2において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は16.2%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 5(1) × 子ども票 問 14)

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

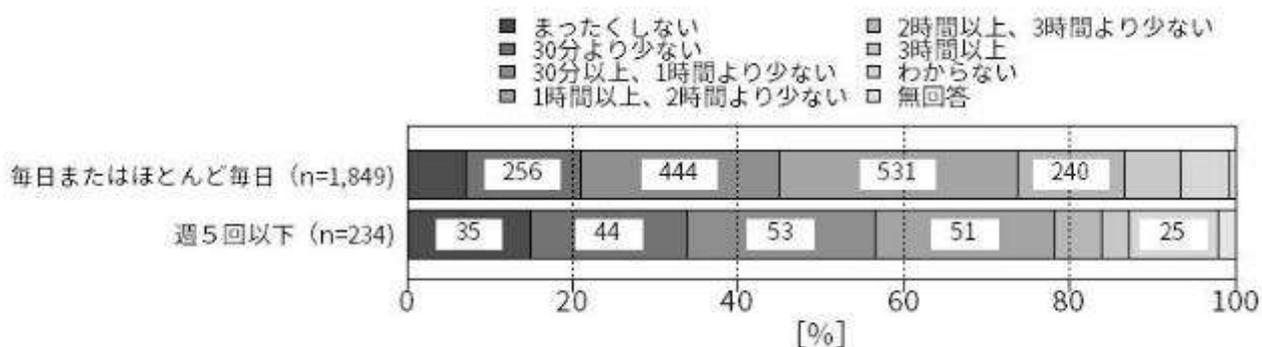
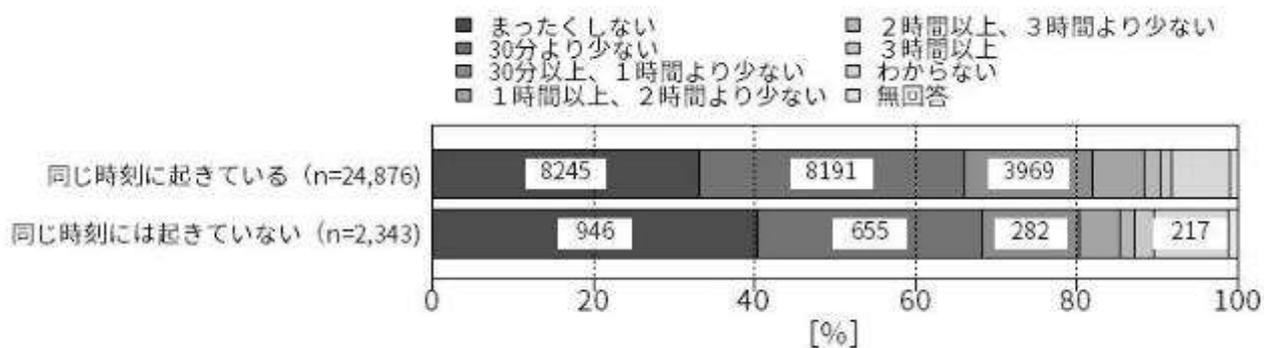


図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問 5 において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週 5 回以下」としている。朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは 13.8%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分以上、1 時間より少ない」「1 時間以上、2 時間より少ない」「2 時間以上、3 時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 24.0%、28.7%、13.0%であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問2 × 子ども票 問19）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

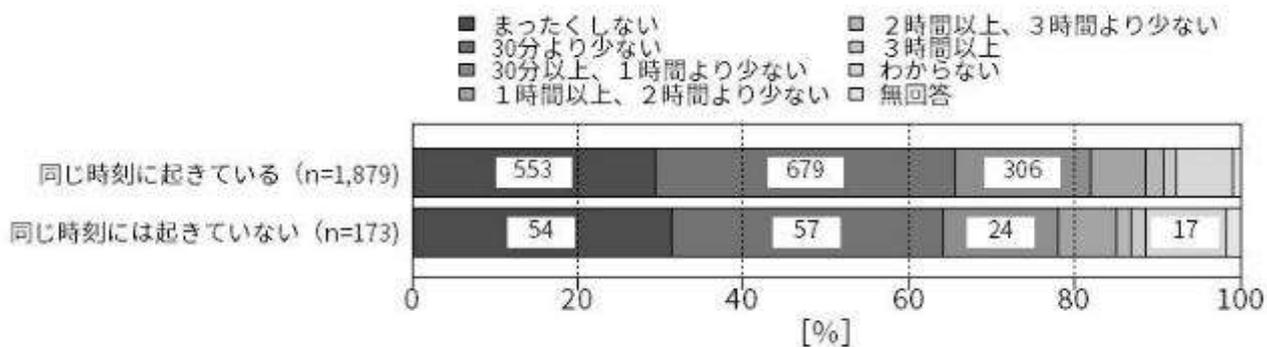
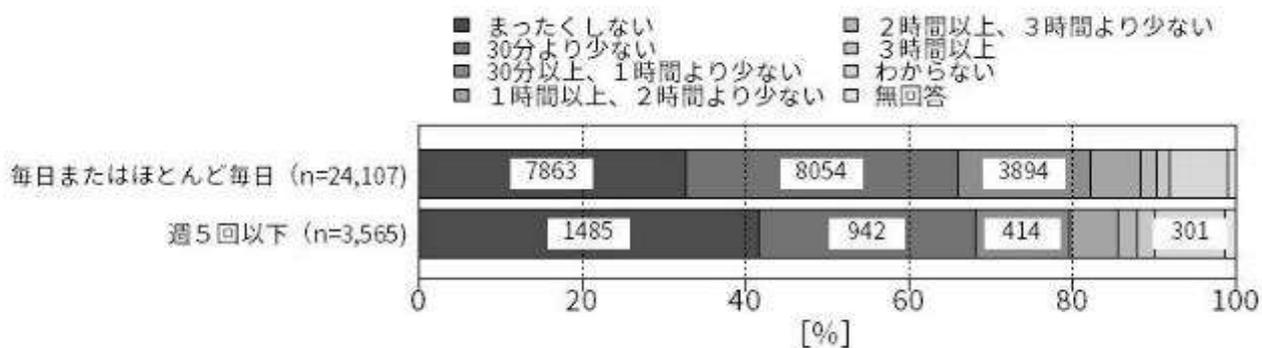


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は31.2%であった。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

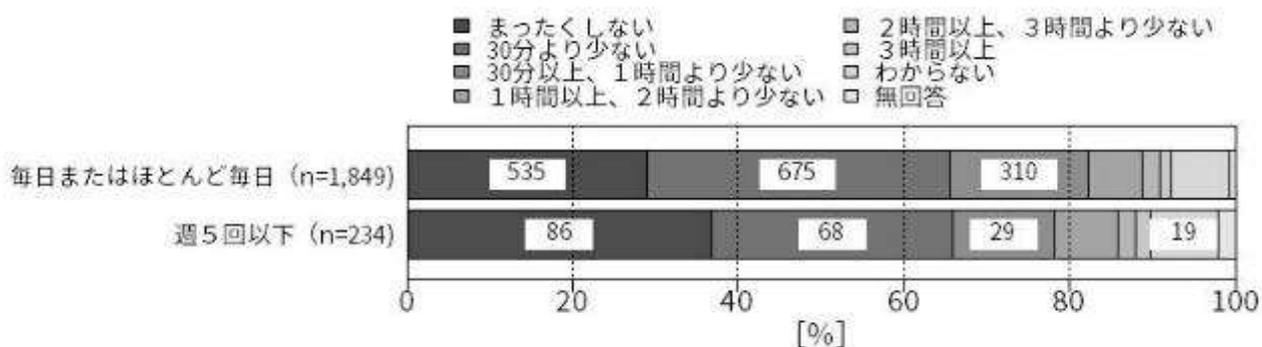


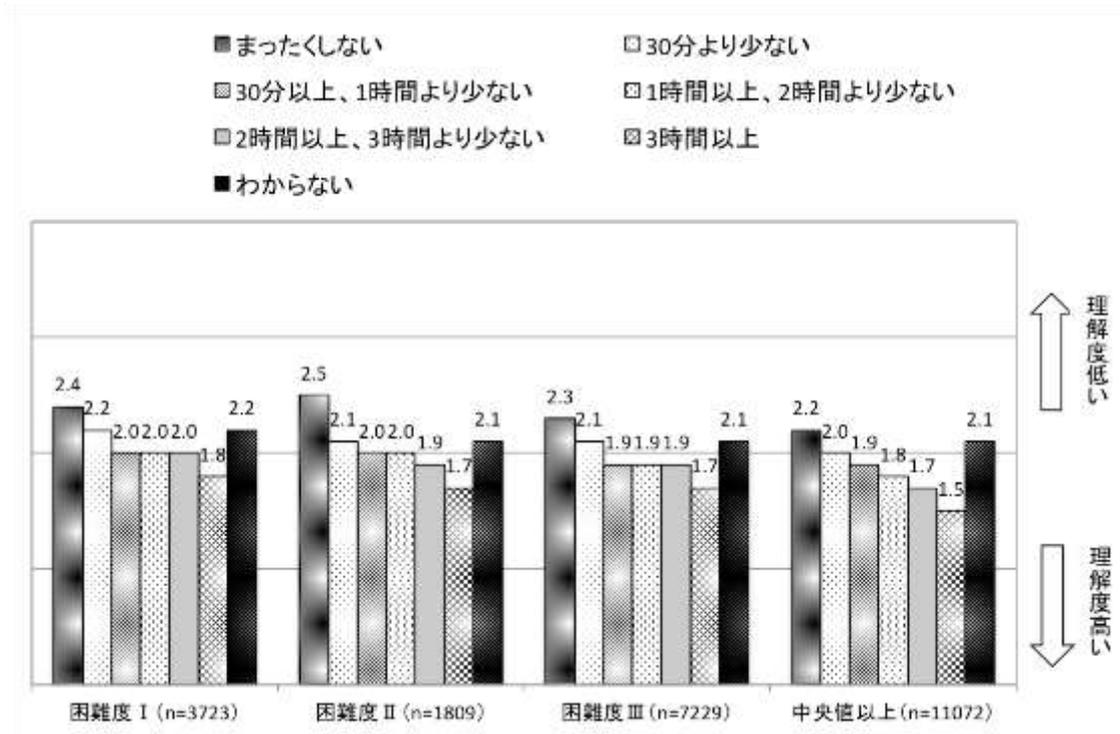
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは28.9%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ16.8%、6.4%、2.2%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票 問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>

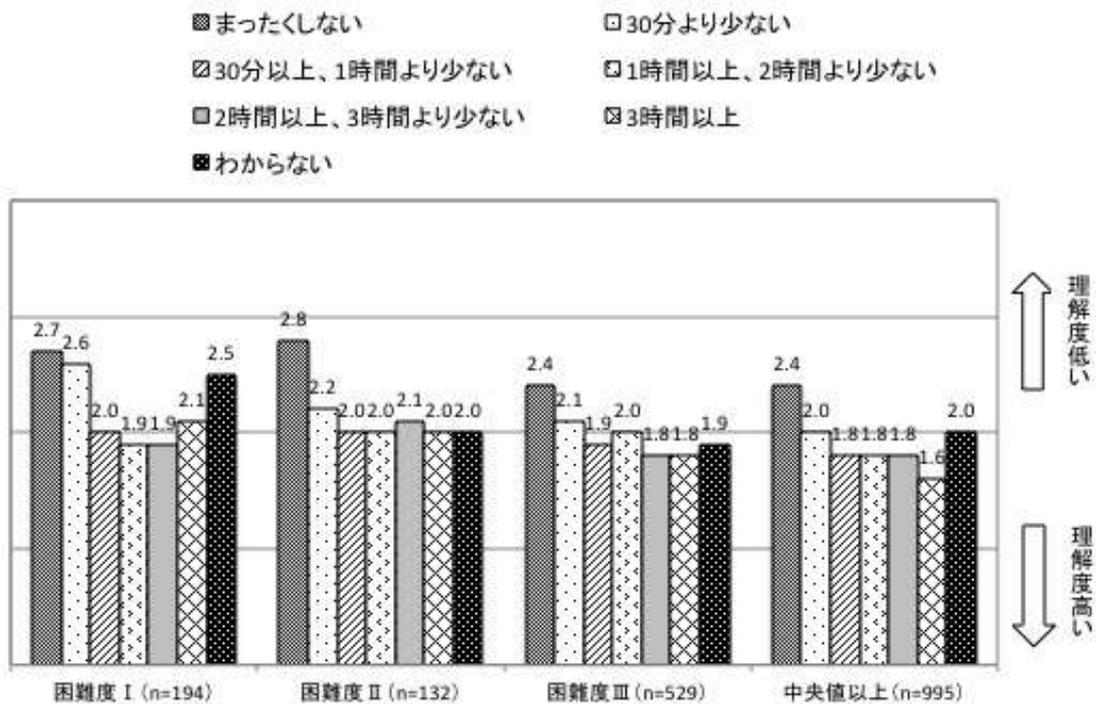


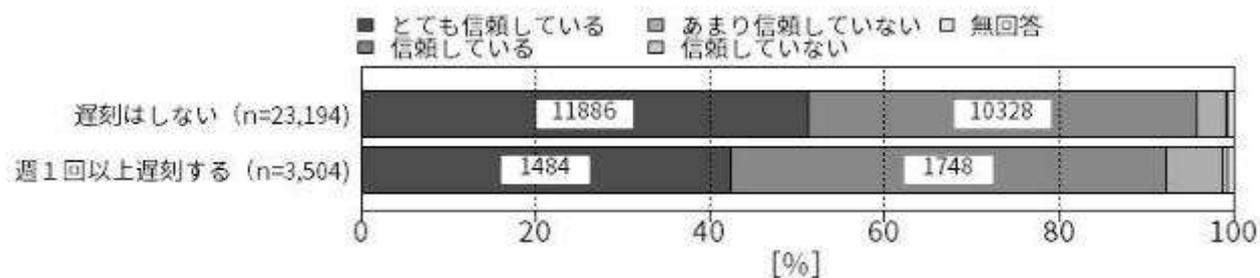
図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

困窮度が高まるにつれて同じ勉強時間でも理解度が低くなる傾向にあった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(1)）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>



図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

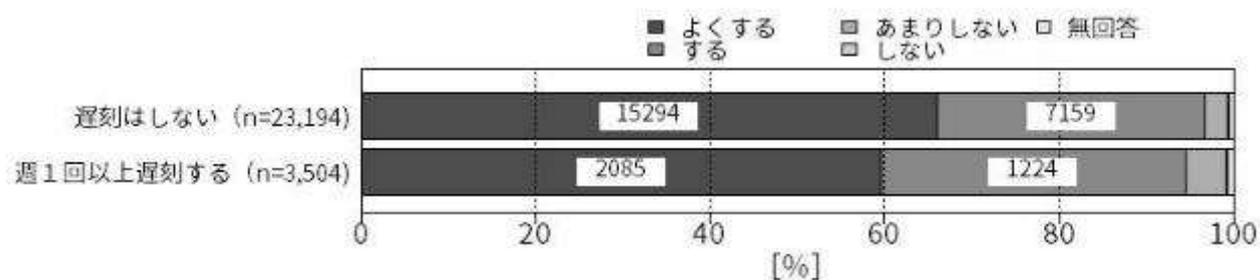
ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が51.4%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「信頼していない」割合が0.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

（子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市城東区>



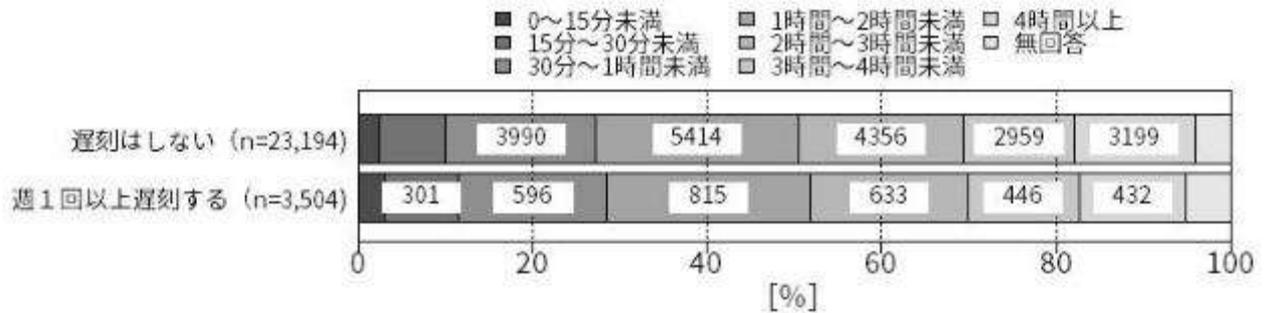
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が66.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

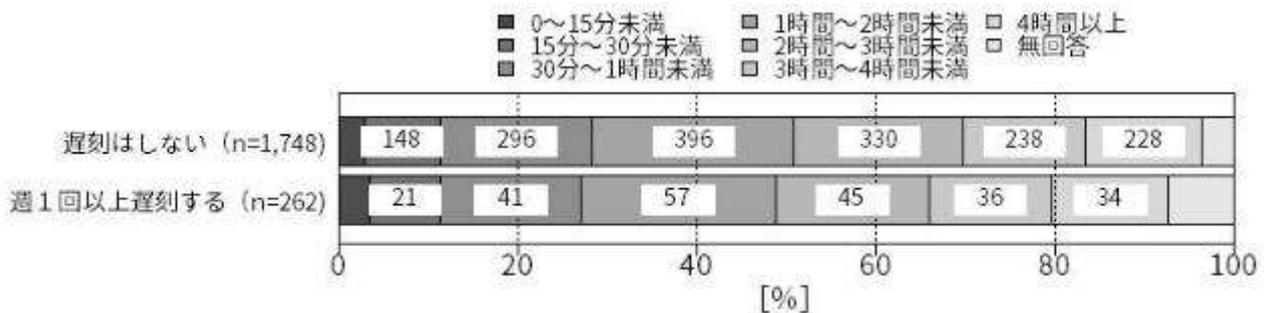
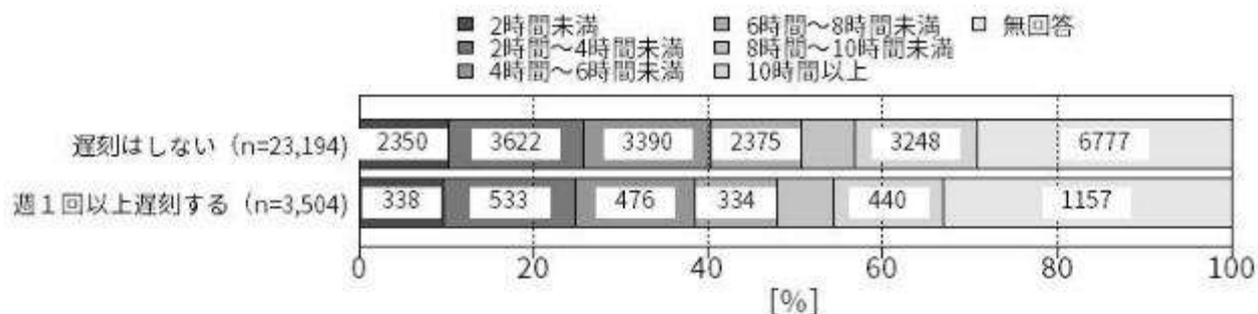


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間～3時間未満」「30分～1時間未満」の割合がそれぞれ18.9%、16.9%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

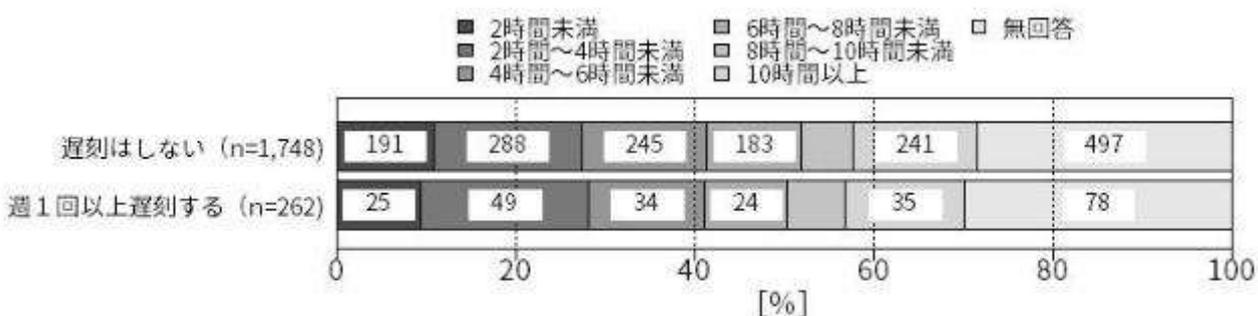


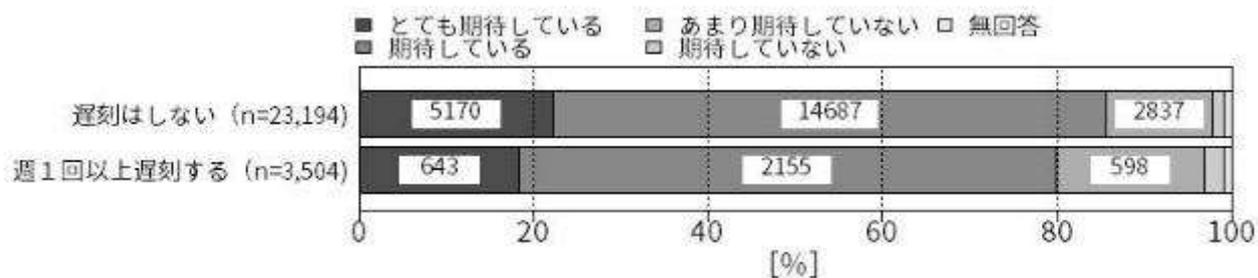
図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ10.9%、16.5%、14.0%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ9.5%、18.7%、13.0%であった。また、いずれも無回答の割合が高かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市城東区>

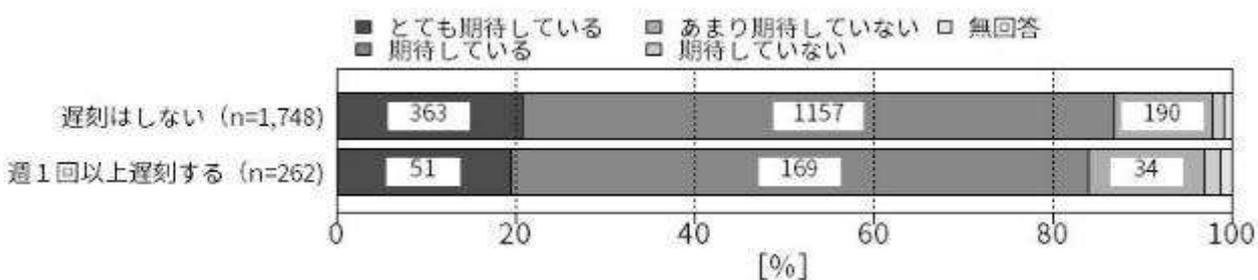


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、20.8%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、19.5%であった。